

次期奈良県がん対策推進計画の戦略構造（案）

個別施策

中間目標

最終目標（目指す姿）

予防

たばこ対策

- ①インターネットを使った禁煙希望者への禁煙支援
- ②市町村施設・学校施設の禁煙化の推進
- ③健康なら協力店による禁煙の推進
- ④早期（子ども）からの健康教育に利用するDVDの作成と活用の推進
- 検討中

施策の柱

- 喫煙率の低下（禁煙支援）
- 受動喫煙防止
- 未成年者対策
- 妊産婦対策

喫煙と健康に関する正しい知識が普及し、また、禁煙支援が行われることにより、喫煙者が減少する
公共施設等の禁煙化を達成することにより、受動喫煙が防止される

喫煙と受動喫煙を防止し、それにより、がんの発生と死亡が減少する

早期発見・早期受診

がん検診

- ①市町村、保険者、医療機関との協議の実施
- ②がん検診受診キャンペーン等の実施
- ③奈良県がん検診推進県民会議の設置
- ④がん検診の重要性についての効果的な広報
- ⑤子育頭がん予防の啓発活動の強化
- ⑥保険者による特定健診の受診券配布に併せて、がん検診案内チラシを統一的に配布
- ⑦受診勧奨となる取組に対し、県調整交付金で支援
- ⑧健康長寿文化づくりモデル市町村において、車の根のがん検診受診率向上普及、啓発を実施
- ⑨がん予防対策推進委員会を受診率向上部会と精度管理体制に分けて設置
- ⑩市町村及び集団健診機関に対する、国の事業評価のためのチェックリストを用いた精度管理
- ⑪精密検査機関からの結果フィードバックの徹底
- ⑫胃・肺・乳がんの検診誘影医の養成の検討
- ⑬がん検診従事者の資質向上のための研修会の開催
- ⑭患者が自ら治療方法を選択できる体制（インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンの促進）
- ⑮医療の質の測定、公表についての検討
- ⑯がん医療の均てん化、集約化、医療連携の検討
- ⑰拠点病院におけるチーム医療体制の促進
- ⑱拠点病院等における専門的医療従事者の育成

がん検診の受診率の向上

がん検診の実施、広報が確実に行われ、受けたい時に無理なく受けられる環境がある
対象者が、がん検診を受診する必要性を十分理解している

がん検診精度管理体制の整備

がん患者やその家族が納得した治療を受けることのできる環境の整備
放射線療法、化学療法、手術療法の体制の整備
全ての拠点病院にがん医療体制の整備
がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成

がん医療

診断・治療

小児がん（今後検討予定）

- ①患者やその家族の満足度の把握
就労に関するニーズ、課題の把握
- ②各相談窓口の機能と役割の検討
- ③相談支援センターの利用者の拡大
- ④相談支援センターの質の向上
- ⑤患者サロンの利用者の拡大
- ⑥ピア・サポーターの研修の実施等

がん患者やその家族のニーズの把握

医療機関や公的機関における相談支援の充実
ピア・サポーター体制の整備
患者支援情報の整備
地域連携体制の整備

長期目標を達成するため、患者やその家族が活用しやすい相談支援体制の整備がすすむ

すべてのがん患者やその家族が、不安、悩み、疑問に
対し、いつでも身近なところで、必要な情報を受けることができる

●全体目標

- ①がんによる死亡者の減少
- ②患者・家族のQOLの向上

治療の連携

地域連携

- ①地域医療資源の把握
- ②地域連携クリティカルパスの検討と整備
- ③拠点病院における医療従事者の理解の醸成
- ④拠点病院以外の医療機関における医療従事者の理解の醸成
- ⑤地域連携ネットワーク体制の検討
- ⑥県民へ地域連携クリティカルパスの啓発

がん患者が、診断、治療、在宅、看取りまで切れ目のない地域連携による質の高いがん医療を受けることができる

長期目標を達成するため、がん診療に関する地域連携体制の整備がすすむ

がん患者が、診断、治療、在宅、看取りまで切れ目のない地域連携による質の高いがん医療を受けることができる

緩和ケア

- ①拠点病院等における緩和ケアの質の向上
- ②拠点病院以外の医療機関における緩和ケアの促進
- ③緩和ケア病棟の整備の検討
- ④在宅緩和ケア地域連携の促進
- ⑤がん診療をしている医療従事者の緩和ケアの知識の向上
- ⑥在宅医の緩和ケアの知識の向上（研修受講促進）
- ⑦がん患者への「患者必携」の普及
- ⑧在宅緩和ケアに関する講演会等の開催
- ⑨がん患者・家族の緩和ケアに関するニーズの把握

緩和ケア提供体制の整備

がん診療に携わる全ての医療従事者の緩和ケアの知識の習得
がん患者や県民への情報提供と普及啓発

長期目標を達成するため、がんやその家族ががんや診断された時から緩和ケアを受けることのできる体制の整備がすすむ

すべてのがん患者やその家族が、居住する地域にかかわらず、必要な時に質の担保された切れ目のない緩和ケアを受けることができる

がん登録

- ①がん登録の意義等についての医療関係者、県民への周知
- ②分析体制、方法の検討

地域がん登録の必要性の周知

分析方法等の確立

地域がん登録の精度指標が向上し、分析方法が確立されている

地域がん登録が確立され、罹患率、生存率等を公表している